

巻 頭 言

院長 西土井英昭

令和の時代を迎えました。鳥取赤十字病院にとっても新病院が本格稼働を始めてやっと1年です。昭和31年竣工のかつてのA館も取り壊され、今や昔の面影を残すところはほとんど無くなりました。老舗として生き残るためには職員のたゆまない努力と時代に即した変革に機敏に対応していくことが求められています。これからも新しい日赤病院を皆様と一緒に形づくっていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

さて、鳥取赤十字病院医学雑誌2019 (Vol. 28) が刊行できました。医学雑誌は職員の記録でもあり、病院の財産でもあります。論文は医療従事者にとって経験症例を大切にするとともに頭を整理することにも役立ち、今後の自分の仕事の糧となる業績です。私は常に若い時に先輩から言われた言葉を思い出します。「学会発表は内容に責任がない、論文は活字として残り内容には全責任が伴う」と。したがって、極論すれば発表は嘘が入っていてもその時に非難されるだけですが、論文は決して嘘が入ってはいけません。論文は未来永劫活字として残ります。したがって論文を書く時は細心の注意を払い、検証し、何度も推敲する義務があります。だから論文は尊いのです。

皆様も医療者になったからには一度でも論文を書くことをお勧めします。発表10回より論文1編の方が貴重です。医学論文に文才は必要ありません。事実に基づいて決まったフォーマットで記載し、関連した文献を読みあさって自分の経験した事実がどうしてこうなったかを考察すれば出来上がりです。新生鳥取赤十字病院を担う皆様がどんどん論文を書いて雑誌が厚くなることを祈っています。

最後に、編集に尽力していただいた職員の皆様に敬意を表するとともに、この医学雑誌が多く読まれることを期待します。

2019年11月吉日